

教室だより

佐渡市立金井小学校
佐渡ことば・きこえの教室
〒952-1209 佐渡市千種155
: 0259(63)4156(直) 4115(代) FAX: 4117
<http://www.sado.co.jp/kanaisyo/>
E-mail: kanai es@sado.co.jp

平成17年 9月30日 第705号

2学期が始まって早くも1ヶ月がたちます。ほとんどの子どもと夏休みを挟んでの再会をすることができました。夏休みが楽しかった子。そうでもなかった子。感じ方も過ごし方も違いますが、夏休みを経て、みんな少し大人になったなと感じました。

さて、今回は私たちが夏季休業中に参加した研修会の報告をします。質問等ございましたら、お問い合わせください。



教室への直通電話は63-4156です。「よいころ」と覚えてください。

指導中や会議などで電話に出ることができないことがあります。その際は後でかけ直すか、留守番電話にお名前と連絡先を入れておいてください。

側音化構音・口蓋化構音の指導の実際

～日本語障害児教育研究会第38回大会より～

「構音」とは、簡単に言えば、発音のことです。この発音に一貫した誤りがある状態が「構音障害」です。構音障害は誤り方によって、「省略」「置換」「歪み」の3つに分類されますが、歪み発音の代表的なものが「側音化構音」「口蓋化構音」です。

側音化構音は呼気に唾液が混ざったようなグジュグジュした感じに、口蓋化構音は飴玉をしゃぶったようなモゴモゴした感じに聞こえるのが特徴です。原因ははっきりしませんが、いずれも舌の悪い癖がついてしまったことによるものです。この癖は見事なもので、どうやったらそんな芸当ができるのかと思うくらい、舌の形を簡単に變形させて発音します。こう言うと、とても珍しい発音の誤りのように思われますが、この発音をしている子どもはけっこう身近にいます。しかし、少しおかしいなと感じるくらいで、気付にくい面があります。

歪み発音は、放っておいて治ることはありません。また、治すのに非常に時間のかかる発音です。講師である昭和大学の山下先生は、「小学生のうちに治してあげたいね」とおっしゃっていました。指導はスモールステップで行いますが、教科書通りにいかないのが指導者泣かせのところでは

(石見)

「軽度発達障害児の指導」の分科会から

～関東甲信越地区特別支援教育研究協議会茨城大会より～

茨城の発表者から、児童の混乱している状態を整理し、子どもの気持ちに寄り添いながら思いや考えを言語化できるように支援していった実践例の紹介がありました。

神奈川の実践例は、集団での学習や清掃活動などに困難さを感じていた子どもに担任の先生と保護者の方、通級担当が連携して支援してきたという内容でした。

助言者の筑波大学の岡崎慎治先生から、「専門医の診断を受けたくない、障害名がつくことには強い抵抗感があるという保護者の方もいる。そのような場合、学校や園では、診断はなされていないが、かもしれないと予想して、指導や支援の計画を立て実践していったほしい」とのお話がありました。そして、支援や指導をすすめていく中で、このやり方が合っているようだ、このやり方で効果が上がっていると実感でき時に、保護者の方に受診をすすめてみる方法もあるとのことでした。

困っていると感じている子どもたちに寄り添っていけるよい方法だと感じました。また、校内の支援体制にも活かしていけるのではないかと思います。

ました。(高原)



「支援についての考え方」について

～新潟県特別支援教育研究会 言語・難聴部研修会より～

神奈川県立平塚盲学校の中田正敏先生からお話を聞いてきました。

今度始まる特別支援教育は、障害のある子一人一人のニーズを把握して必要な支援を行うというものです。しかし、この支援ということばについては、注意が必要だそうです。

例えば大腿部を骨折した人は、歩こうとする際に支援が必要ですが、座っているときには必要ありません。また、視覚障害の人で、知らない場所では白杖を使って歩き、よく知っている場所では使わないという人がいます。この人にとって、よく知っている場所では支援が必要ないのです。

つまり特別支援教育における、**特別な支援が必要な子ども**というのとは、いつも支援が必要なのではなく、**支援が必要な場面がある子ども**ととらえた方がよいとのことでした。

支援が必要な場面がある子どもというのと、障害の有無にかかわらず、学校内にはかなり大勢いるはずで、学校が抱えるいじめ、不登校などといったいろいろな問題にも特別支援教育の方法が通用する場合があるだろうということでしたので、特別支援教育が当たり前になり、どの学校でも行われるように推進していかねばならないと思います。(中村)

お知らせ特別版

親子ハイキングがありました

9月19日に親子ハイキングがありました。自然の中でゲームをしたり、カレーを食べたりして楽しい一時を過ごしました。ボランティアの皆さん、本当にありがとうございました。また、会員の方から、たくさんの野菜のご寄付がありました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

ボランティアの学生さんの感想をいくつか紹介します。

ボランティアの感想紹介

親子ハイキングは初めての参加でした。今までは室内で子どもたちと遊ぶことが多かったのですが、今までとは違った子どもたちの表情や明るさを見ることができ、自然と触れ合いながら、外でさまざまな遊びをすることができて良かったです。最近ではテレビゲームや家で遊ぶことが多いのですが、このような機会を設けて遊ぶことは子どもたちにとってもいい刺激になり、すばらしいことだと思います。子どもたちも素直に楽しんでくれたので、私自身も本当に楽しかったです。また参加したいと思います。カレーライスごちそうさまでした。

今日はたくさんのお友達と遊ぶことができました。うまく関わらなかった子もいましたが、子どもたちと遊ぶことによって、自分も子どものような気持ちになって遊ぶことができました。

今日は子どもたちとコミュニケーションをとることの難しさをあらためて感じました。自分の気持ちを100%伝えたとしても、子どもたちが100%返してくれるわけではないことをあらためて実感しました。またこのような行事があれば参加したいと思います。今日はどうもありがとうございました。

今日はたくさんのお友達と遊べてとても楽しかったです。疲れも忘れてみんなで楽しむことができました。自然の中で遊ぶのってやっぱり楽しいです。また機会があったら参加したいと思います。今日は本当にありがとうございました。

